

磐梯朝日自然環境保全研究所活動報告書

所長 塘 忠顕

○研究目的

磐梯朝日国立公園において、植生遷移、火山活動、気候変動、人間の土地利用、水利用が自然環境に及ぼす影響の実態把握と将来予測を行い、現在の自然環境を維持・保全・改善するための方策を明らかにする。

○研究メンバー

<研究代表者（研究所長）>

塘 忠顕（共生システム理工学類教授）

<研究分担者（プロジェクト研究員）>

長橋良隆（共生システム理工学類教授）

黒沢高秀（共生システム理工学類教授）

柴崎直明（共生システム理工学類教授）

木村勝彦（共生システム理工学類教授）

川越清樹（共生システム理工学類准教授）

横尾善之（共生システム理工学類准教授）

兼子伸吾（共生システム理工学類准教授）

川崎興太（共生システム理工学類准教授）

高貝慶隆（共生システム理工学類准教授）

<連携研究者（プロジェクト客員研究員）>

藪崎志穂（総合地球環境学研究所研究基盤国際センター研究員）

○研究活動内容

HPによる情報発信

研究所のメンバーによる現地調査、研究論文・報告書、学会発表、報道された記事等、研究所のメンバーが支援した活動などをHPによりほぼ毎週紹介した。

現地調査活動

吾妻地域、裏磐梯（銅沼）地域、表磐梯（猪苗代）地域での昆虫相調査、植生調査、年輪試

料採取、外来植物の駆除活動、一切経山でのアザミウマ類サンプリング、裏磐梯地域や猪苗代地域での地下水観測調査、裏磐梯五色沼湖沼群の水位観測等を行った。



研究論文等の公表

磐梯吾妻地域や猪苗代地域の昆虫相、DNAを用いた絶滅種イワキアブラガヤの由来、絶滅危惧種クマガイソウの遺伝的多様性、土壌性カニムシ類の分子と形態に基づいた種多様性、外来底生動物の食性、ヒトツバイチヤクソウの分類と分布、裏磐梯の来訪者特性、裏磐梯地域に生じる特異な降雪プロセスの分析に関する内容で、研究所のメンバーあるいはメンバーの研究室の院生が9本の論文を公表した。

研究成果発表等

公益財団法人ふくしまフォレスト・エコ・ライフ財団主催の「フォレストパークあだたら生き物調査発表会2017」にて、研究所のメンバーの研究室に在籍する学生・院生が研究成果を発表した（2017年10月1日）。裏磐梯ビジターセンター主催の「裏磐梯ビジターセンター第13回学生研究発表会」にて、研究所のメンバーの研究室に在籍する院生および学生が研究成果を発表した（2018年3月13日）。

その他、東アジアの植物多様性と保全に関する国際会議 (2017), 第 13 回 AOGS (Asia Oceania Geosciences) 年次大会 2017, JpGU-AGU Joint Meeting 2017, 日本植物分類学会第 17 回大会, 日本植物学会第 81 回大会, 日本動物学会第 88 回大会, 日本陸水学会第 82 回大会, 第 7 回同位体環境学シンポジウム, 第 25 回土木学会地球環境シンポジウム, 土木学会東北支部技術研究発表会, 水文・水資源学会研究発表会, 第 38 回菅平動物学セミナー, さくら湖自然環境フォーラム 2017 で研究所のメンバーあるいはメンバーの研究室の学生・院生が研究成果を発表した (全部で 22 件)。第 25 回土木学会地球環境シンポジウムでは, 川越研究室の鈴木絢美が, 日本植物分類学会第 17 回大会では黒沢研究室の根本秀一が, それぞれポスター賞を受賞した。また, 日本植物学会第 81 回大会では黒沢が水生植物に関する自由集会をオーガナイズした。

昨年度開催しなかったプロジェクト研究所の研究成果報告会を 2018 年 3 月 11 日に休暇村裏磐梯天文台ホール会議室にて開催した。裏磐梯地域や猪苗代地域の地下水, 湖底堆積物, 生物に関する 11 題の研究成果が報告された。学内者 25 名, 学外者 29 名の合計 54 名の参加者があった。

2017 年 12 月 16 日に会津若松ワシントンホテルで開催された福島大学研究・地域連携成果報告会では研究所の活動を紹介したポスターを掲示し, 2018 年 3 月 6 日に学内で開催されたプロジェクト研究所の所長会議・成果報告会 (福島大学研究推進機構主催) では, 研究所の今年度の活動や研究成果を簡単に紹介した。

助成研究に関する成果

株式会社ニチレイにより, 2 件の応募研究課題 (黒沢高秀: 裏磐梯にかつて存在したススキ草原に関する生態学的・民俗学的研究, 塘 忠顕: 裏磐梯の株式会社ニチレイ社有地内の陸生昆虫相解明) に対して研究費が助成された。

ススキ草原に関する研究では, 現存する草原の植生の特徴を明らかにし, 残っている理由や今後の遷移の推測を行った。また, 一般向けに講演を行うなどの普及を図った。

陸生昆虫相に関する研究では, 調査結果に基づいて社有地を含む周辺地域で観察できる美麗昆虫 (トンボ, チョウ, ハムシ) のミニ・ガイドブックを作成し, 裏磐梯ビジターセンターとサイトステーションに提供した。



その他の活動

猪苗代水環境センターで開催された「猪苗代水環境センター環境学習会」で塘が講師を務めた (2017 年 7 月 23 日)。



2 年間の猪苗代湖における底生動物相調査の結果に基づき, 塘が猪苗代湖に生息する底生動物を紹介するミニ・ガイドブックを作成した。

ミニ・ガイドブックは、アクアマリンいなわしろカワセミ水族館と猪苗代水環境センターに提供した。



環境創造センターオープン1周年記念企画「環境教育フェスティバル」では塘がブースを出展し、水質評価に用いる水生生物の紹介を行った(2017年8月5日)。

環境省裏磐梯地区オオハンゴンソウ駆除(2017年7月26日), 猪苗代クリーンアクション2017ヨシ刈り・清掃ボランティア(2017年10月25日), 裏磐梯曾原エリア(曲沢沼)でのコカナダモ駆除活動(2017年9月14日), 猪苗代湖の漂着水草回収(2017年11月5日)に黒沢研究室の教員や学生などが参加した。

猪苗代町体験交流館「学びいな」で開催された猪苗代湖・裏磐梯湖沼水環境保全フォーラムにて、長橋が「猪苗代湖の何が地質学的に面白いのか～湖と火山の競演～」とのタイトルで基調講演を行った(2017年11月21日)。

首都大学東京の学生や青森県環境保健センターの研究者に対して、塘が湖沼の水の色の発色に関わる研究支援(プロジェクト研究所の有する資料や情報の提供)を行った。